

注意点1



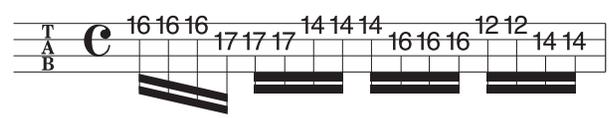
レイキングを使わずに1&2弦を同じ指順で弾こう

メイン・フレーズ1小節目1~3拍目は、1・2弦でそれぞれ3音ずつ鳴らすため、3フィンガーがフィットするパターンになっている。そのため3フィンガーを生かした指順で演奏するが、弦移動時には注意が必要だ。このような弦移動を伴うパターンではレイキングを使うことが多いが、ここでは1弦と2弦を同じ指順にした方が安定感のある演奏になるだろう(図1)。つまり、1弦の“薬指→中指→人差指”と同じく、2弦も“薬指→中指→人差指”という指順で弾くのだ(レイキングを使って、2弦を人差指→薬指→中指という指順にするのはオススメできない)。このようにフレーズ内容に合わせて、最良の指順を選ぶようにしてもらいたい。

図1 3フィンガーの指順

・メイン・フレーズ1小節目

- × 薬 中 人 人 薬 中 人 薬 中 中 人 薬 中 人 人 薬
- 薬 中 人 薬 中 人 薬 中 人 薬 中 人 薬 中 中 人



レイキングを使うと、指順が乱れるので注意しよう。

注意点2



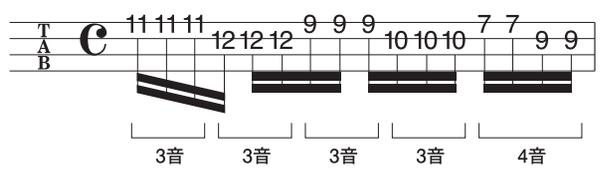
変則パターンに惑わされずに16分音符をキープせよ!

メイン・フレーズ1~2小節目は、3フィンガーの指順とともに、ポリリズム風な変則リズムパターンにも注意が必要だ。この部分はすべて16分音符で“3音→3音→3音→3音→4音”という音の区切りになる(図2)。このようなリズムパターンは、誤って3連符や6連符で演奏してしまう【註】ことが多いので、16分音符のリズムを常に感じながら演奏しよう。4分音符のタイミングで足踏みを入れながら、頭の中では16分音符のカウント音を鳴らすとよい。1~3拍目ではストレートな3フィンガー、4拍目ではレイキングを活用して、リズムに正確に乗ったプレイを実現しよう。

図2 ポリリズム風な変則パターン

・メイン・フレーズ2小節目

- オーソドックスな3フィンガー
- レイキング
- 薬 中 人 薬 中 人 薬 中 人 薬 中 人 薬 中 中 人



16分音符のリズムと拍子を正確に取りながら、3フィンガーで演奏しよう。

~コラム19~

将軍の戯れ言

歪みサウンドは、ざっくり分けると2種類ある。1つ目は、音のキメが細かいディストーションで、おもにエフェクターを使って生み出す。もう1つは音粒が粗いオーバードライブで、こちらはアンプ・ヘッドのゲインを上げることで作れる。筆者にとって歪みは必要不可欠なものだが、基本的にエフェクターで作ったディストーションを使うことが多い。それは、オーバードライブよりもディストーションの方が、速弾きなどで1音1音をハッキリ聴かせることができるからだ。現在のベース・エフェクターは、かなり性能が高く、ベースの原音とエフェクト音の混ぜ具合を調節することができる。

ギタリストだけのものではない! ベーシストも歪みサウンドを研究せよ

その昔、筆者はライブではギター用のディストーションを使っていて、ベース・アンプも歪み用とクリーン用の2台を用意していた。というのも、当時のディストーションには原音を混ぜる機能がなかったため、歪ませると音痩せ(音の芯や低音がなくなる)がひどかったからだ。その後、ベース専用の歪みエフェクターが登場し、この1台で自分の理想に近いサウンド・メイキングができるようになったのである。超絶プレイを行なう上で、歪みは重要なポイントになるので、ぜひ読者諸君もいろいろ研究してみてください。オリジナリティ溢れるサウンドを生み出すのだ!



ボスのODB-3(ベース・オーバードライブ)。原音を生かしたまま、激しい歪みを生み出すことができる。

【誤って3連符や6連符で演奏してしまう】音の区切りを理解することは大切だが、それを意識するあまりリズムが乱れてしまうことがある。特に譜面を目で追いつながりながら練習している人は、この傾向が強いので気をつけよう。